

# タイルとホコラとツーリズム

## season 2 《こちら地蔵本準備室》

2015年8月15日(土) — 30日(日) 11:00~19:00

\*月曜日はお休み / 金曜日は20:00まで / 最終日は18:00まで

出品作家 | 谷本 研 / 中村 裕太 制作協力 | studio森森

主催 | 「タイルとホコラとツーリズム」実行委員会

協力 | Gallery PARC / 多治見市モザイクタイルミュージアム / 東山アーティストツ・プレイメント・サービス(HAPS) / みずのき美術館

資料提供 | 岡本絵麻、加藤賢治、野口さとこ、福島幸宏、松井正春、村上紀夫、森篤、師茂樹、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課、地蔵プロジェクト、ほか(敬称略)



京都の街角を歩いた際、不意に地蔵菩薩や大日如来などを奉ったホコラ(路傍祠)を目にすることがあります。

その多くはコンクリートや石積み基礎の上に木造の社を持ち、今も街角に残るホコラには、それらが地域に受け継がれ、奉られてきた信仰の対象である事を伺い知る事が出来るとともに、しばしば目にするタイルづくりのホコラには、それらが今日的な都市の様相を取り入れてきた「転用」の歴史や変遷に思いを馳せる事ができるものです。

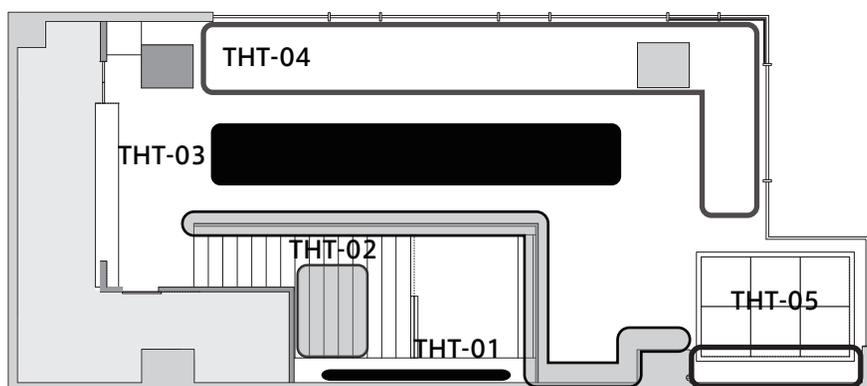
ギャラリー・パルクでは、2014年のお盆の時期に、この「タイル」と「ホコラ」に着目した谷本 研(たにもと・けん/1973年・神戸市生まれ)と中村裕太(なかむら・ゆうた/1983年・東京都生まれ)の2名の美術家による展覧会「タイルとホコラとツーリズム」を開催しました。これは京都市内で目にするホコラの生態系に着目し、それぞれ「タイル」と「ホコラ」をポイントとして捉え、それらを地域における「ツーリズム(観光)」といった視野で考察する試みであり、谷本はフィールドワークにより市内中心部のホコラから三十三所を厳選した《三十三所ミニホコラ》を、中村は建築・工芸・民俗の観点からのリサーチをもとに、路傍で採取したタイル片を集積し、会場内に盆棚を組み上げた《納涼盆棚観光》を出現させました。その他、ペナントや法被などの関連グッズで埋め尽くされた会場は、まるでタイルとホコラをめぐる観光案内所となりました。

本展「タイルとホコラとツーリズム」はサブタイトルを「season2《こちら地蔵本準備室》」として、谷本・中村の2人が「地蔵本」の出版を目標に掲げ、そのための準備室としてギャラリー空間を活用します。

多くの皆様よりお寄せいただいた写真をもとに編まれた新たな《三十三所ミニホコラ》が見守る会場には、谷本・中村が収集したタイルとホコラにまつわる様々な文献資料や多治見市モザイクタイルミュージアムのコレクション、中村の作品などが物品資料として蓄積・陳列される書庫「ホコラテーク」が出現しています。

ここには昨年の展覧会をきっかけに懇意となった方々を含め、各地でお地蔵さまにまつわる活動をする皆様から提供された文献や物品資料が含まれ、タイルとホコラに向けられたより多様な視点が収集されているとも言えます。加えて畳の間は「地蔵本」の出版に向けた資料整理や執筆などをおこなう書齋となるなど、ギャラリーはさながら谷本・中村の「アチック(屋根裏部屋)」となります。

また会期中には、ギャラリーを出発して夜のホコラを巡るナイトツアーや、「地蔵本」のアイデアを語り合うトークイベントも開催するなど、地蔵盆の季節、ギャラリーはひととき彼ら(みなさん)の屋根裏部屋としても開かれます。



### 作家略歴

#### 谷本 研 Tanimoto Ken

1973年 神戸生まれ、滋賀在住。京都市立芸術大学大学院造形構想専攻修了。アートとその周縁に関わりながら企画活動を行う。主な展覧会に「デカダン秘宝館」(1996/ギャラリーココ)、「当世物見遊山」(1999/お宿吉水)など。2002年からは大津市仰木をフィールドに「地蔵プロジェクト」を展開中。デザインや漫画も手掛け、「プリコラージュ・アート・ナウ 日常の冒険者たち」(2005/国立民族学博物館)や「Dan Graham: Beyond」(2009/MOCA) 図録などに漫画を執筆。昨年、ブックデザインを担当した「フランスの色景」(港千尋・三木学著/青幻舎)が出版された。観光ペナントの収集研究者として知られ、著書に『Pennant Japan』(PARCO出版)がある。

#### 中村 裕太 Nakamura Yuta

1983年 東京都生まれ、京都府在住。2011年京都精華大学芸術研究科博士後期課程修了。博士(芸術)。博士論文「郊外住居工芸論——大正期の浴室にみる白色タイルの受容」。〈民俗と建築にまつわる工芸〉という視点からタイル、陶磁器などの理論と制作を行なう。最近の展示に「六本木クロッシング2013 展:アウト・オブ・ダウト—来たるべき風景のために」(森美術館、2013)、「知らない都市——INSIDE OUT」(京都精華大学ギャラリーフロール、2015)など。また工芸を作り手の視点から読み解き、その制作方法を探っていく〈APP ARTS STUDIO〉というプログラムを運営。

<http://nakamurayuta.jp>

### 出品作品・資料

#### THT-01

##### 三十三所ミニホコラ(2014)

昨年出品された京都市内のホコラから谷本研が選んだ「ホコラ三十三所」の写真たち。本展では階段上の壁面に展示されている。

#### THT-02

##### 新三十三所ミニホコラ(2015)

およそ10名の皆様より寄せられたおすすめホコラにより編まれた2015年版「ホコラ三十三所」のミニホコラ

#### THT-03・04

##### ホコラテーク

谷本・中村が収集した文献資料(THT-03)と、中村裕太の作品を含む数々の物品資料(THT-04)が集積される場。文献資料についてはお手を触れていただけます。また、会期中に皆様より持ち込まれた資料は拡大複写され、ここに収蔵されていきます。

#### THT-05

##### 「地蔵本」編集室

「地蔵本」の発行に向けて谷本・中村が資料整理や執筆のほか、29日には座談会などをおこなう場となる。